

プロジェクト報告書

団体名 手・サッカー協会

報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度、写真の肖像権問題がないもの)の提出をお願い致しますを添付して下さい。

1. プロジェクト名

手・サッカー大会

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

障害のある人もない人も相互に接する機会が少ないがゆえに、なかなかお互いを理解する事ができない。障害のない人には障害は個性という事を理解し、何も特別な事を考えなくてもいいのだということを理解してもらい、それを受け入れ積極的に障害のある人と関わる事ができるようにする。同じように障害のある人も何も特別な事を考えなくてもいいのだということを理解してもらい、積極的に社会参加ができるようにする。

3. プロジェクトの内容 300文字まで

1. 会場: 北特別支援学校体育館
2. 参加者: 障害者、小学生、大学生、社会人等
3. 実施時期: 交流試合 6月28日 大会 11月16日
4. 参加者: 大会 60名 交流試合 30名
5. 人員: 職員1名、協力者10名、ボランティア60名(交流会・大会合計)

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

車イスを使ってハンドボールに似たゲームを行うが、車イスをこげない障害者に対してもポジションがあり、その人又はその人が乗っている車イスにボールが当たれば得点となるルールにしている。また、それ以外にも手でボールをキャッチできない人に対しては、ボールがその人又は車イスに当たった時点でパスが通ったとみなし、審判がその人にボールを渡しゲームを再開するなど、あらゆる事を想定してルールを作っている。その結果、誰もがゲームに参加でき、障害の有無を超えて楽しみ、相互間の理解を深める事ができた。

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

毎回感じる事ですが、ゲームの楽しさは実際に参加してみても始めてわかります。今回も初めて参加した方がいましたが、ゲームがこんなに楽しいとは思っていませんでした。アスリートが行うような競技ではありませんが、それがむしろ、勝つ事だけに目標を置いたゲームと一線を画し、楽しかったというプラスの経験や体験が共有できるからこそ、障害者と健常者の相互理解がより深くなり、健常者であればいつでも戸惑うことなく声をかけお手伝いできる事を尋ねたり、障害者であれば手伝って欲しい事を伝えたりできるようになる事に繋がると思っています。皆が楽しさを共有できるスポーツは、まさにこの手・サッカーしかないのではないかと考えています。

6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし